



河川改修・国道整備促進特別委員会

7月7日・8日

◎熊倉 均、○岡田 竜一、阿部銀次郎、武石 栄二、酒井 健、横山 一雄、武藤 元美、坂井 良永、野崎 正志、長橋 一弘



名古屋市 国土交通省名四国道事務所

愛知県豊田市足助地内を走る国道153号は、生活道路、産業道路、観光道路など地区の主要道路としての機能を一手に担ってきました。しかし、急勾配やヘアピンカーブなどの危険箇所がある他、中心市街地では車道や歩道の幅員が極めて狭く危険な上、紅葉の名所として名高い香風溪を擁するため、特に秋季は慢性的な渋滞が発生していました。これを受けて国土交通省名四国道事務所ではバイパスを整備し、平成22年の全線開通後は、生活交通と通過交通の分離により救急搬送な

住民悲願のバイパス整備 国道153号足助バイパス整備 事業について(愛知県名古屋市長)

どにかかる時間が短縮され、また、観光利用による一定時期の交通量増大が緩和できるといった成果を上げていました。

住民の検討に基づき、 行政が修景を実施 足助香風溪地区における歴史を活かしたまちづくりについて(愛知県豊田市長)

豊田市足助香風溪地区は、国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された町並みと全国有数の紅葉の名所である香風溪を擁しており、歴史を活かしたまちづくりが住民主体で行われています。修景を重視した案内サイン整備や無電柱化、横断歩道のライン除去といった景観整備が進められており、今後は主にソフト整備を行っていくとのことでした。

まとめ

国道153号足助バイパスについては、整備によって生活や産業、観光の各方面への大きな成果があり、事業効

果の高い公共事業の鏡ともいえるべき事例であると思われました。
また、足助香風溪地区における伝統的な町並みと香風溪は場所が離れているためそれぞれに活用を検討がなされていたところ、足助バイパスの開通により一体的利用が可能となったことにより、観光面での一層の活性化に結びついていました。
道路整備がさまざまな波及効果をもたらし、まちづくりや交流人口の増加につながっている事例であり、三条市も見習うべき点が多いものと感じました。



豊田市 重要伝統的建造物群保存地区の町並み

【決算審査特別委員会 審査レポート】

総務文教 分科会

笹川信子 主査

取り組みの地道な積み重ねが収納率の向上に

歳入では、収納率向上のための取り組みについて、税、料の一括収納体制、滞納事案によるグループ制での対応、滞納整理室を併設し差し押さえ後のインターネット公売、新潟県地方税徴収機構への参加、納税相談員の配置、夜間納税相談の実施など、地道な積み重ねが向上に結び付いているものと捉えているとのことでした。

歳出では、平成26年度の国県要望の採択状況と決定額について、国に対しては41件中27件が採択され、約57億8千万円。県に対しては

109件中14件が採択され、約4億5千万円となったとのことでした。

また、ハイパーQ心理検査の成果について、児童生徒の個々の状況が把握できたことから、ちょっと心配な場合はすぐに教育相談ができ、いじめや不登校の未然防止に役立っている。また、学級づくりの課題を改善していくための指針となっているとのことでした。

また、救急車の台数について、現在の6台は消防力の整備指針通りであり、十分と考えており、全てが出払い、7台目が必要となった事例はないとのことでした。



公共・福祉サービスの在り方について 今後も引き続き検討

市民福祉 分科会

岡田竜一 主査

一般会計、総務費では、公共交通のサービス拡大について、行政のサービス提供には一定の限度が必要であり、広域的な整備は県の役割であると認識しているが、今後も公共交通の在り方を検討していくとのことでした。

民生費では、生活保護について、国の基準により適正に実施しているが、今後も生活保護費の約半分を占める医療扶助費の抑制と支援の在り方の精査を行っていくとのことでした。

衛生費では、かんきょう庵の利用状況について、リニューアル後、

幅広い年代が利用しており、来館者が昨年度同期より1000人程度増えたとのことでした。

土木費では、市営住宅について、新規建設やエレベーター設置の予定はないが、高層階での生活が困難な入居者から相談があれば、低層階への転居等を促しているとのことでした。

教育費では、東京オリンピック・パラリンピックの聖火台について、火焰型土器の採用を目指して今後も活動していくとのことでした。

国民健康保険事業特別会計では、国保税の滞納者について、他の税等も滞納しているケースが多いことから、収納課と連携して納税相談および滞納処分を行っていききたいとのことでした。



経済建設 分科会

山田富義 主査

新たな付加価値のある商品開発が実現

一般会計、総務費では、搜索活動支援施設クラフトメンズ・イン・カジについて、宿泊滞在型の施設であり、日常的に開放はしていないが、地元が開かれた施設とするためイベント等の機会に地元の方と交流していきたいとのことでした。

農林水産業費では、6次産業化取組支援事業補助金について、ハードウェア、ソフトウェアの購入やデザインなどが新たな付加価値を生み出すステップとなり、具体的にはルレクチェのコンポートが商品化されたとのことでした。

商工費では、次世代産業創造プロジェクト事業委託料について、小

型風力発電装置は燕三条地場産業振興センターに1基設置している。今はメンテナンス中であるが、商品化に向けて引き続き取り組んでいきたいとのことでした。

土木費では、木造住宅耐震化事業費について、耐震診断後、実際に工事したか追跡はしていないが、診断された数値によっては改修費を補助している。また、耐震性のない部屋で災害に遭う可能性があるため、建物全体の耐震を推奨しているとのことでした。

水道事業会計では、定員適正化や漏水対策による有収率向上などについて、今年度策定する5カ年程度の新たな経営計画の中で検討していきたいとのことでした。

